

## III 參考資料

# 令和8年度 教育課程編成確認事項一覧

芳賀教育事務所

令和8年度の教育課程編成に向けて、以下の点を再確認してください。

## 教育課程

- 学習指導要領解説（各教科等編）を読み、内容を再確認した。
- 栃木県教育委員会「特別支援学級及び通級による指導教育課程編成の手引」を参考に、特別支援学級や通級指導教室における特別の教育課程を編成した。  
（留意点）・障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導領域である「自立活動」を取り入れる。
  - ・個々の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標・内容を下学年（当該学年より下の学年）の教科の目標・内容に替える。＜各教科等の目標に至る手続きの例＞（手引 P.6～）を参考に適切に編成する。
  - ・各教科の目標及び内容の系統性を踏まえて編成する。
  - ・交流及び共同学習では、豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面を踏まえた上で効果的に実施する。
- 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」及び栃木県教育委員会「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）」を基に、評価について全教職員で共通理解した。
- 各教科等における授業時数については、学校教育法施行規則別表第一、別表第二に基づいて編成した。

## 学習指導

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成の適切なバランスに配慮した。
- 国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査解説資料」、文部科学省・国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査報告書」（「授業アイディア例」）、「使ってみよう！学力調査」、栃木県教育委員会「とちぎの子ども『確かな学力』向上のために～授業改善に向けた3つの視点～」 「とちぎの子ども『確かな学力』向上のために～言語活動の充実を図る3つの提案～」等を参考に、基礎的・基本的な知識及び技能の習得とそれを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等の育成を目指し、授業の工夫、改善について検討した。
- 栃木県総合教育センター「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善【理論編】【実践編】」等を参考に授業の工夫、改善について検討した。
- 栃木県総合教育センター「学ぶ意欲をはぐくむ」「学業指導の充実」や栃木県教育委員会「学業指導の充実に向けて」「家庭学習のすすめ」等を参考にし、学習意欲の向上や学習習慣を確立する手立てを共有した。
- 文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」等を参考に、言語活動の充実を図るための具体策について共通理解した。
- 道徳教育との関連を図った指導計画を作成した。
- 各教科等の学習指導要領及び解説に示された「指導計画作成上の配慮事項」等に基づいて指導計画を作成した。
- 年間指導計画（単元の指導と評価の計画を含む）を、学習指導要領、各学校の教育目標や児童

生徒の実態から検討するとともに、記録に残す評価の場面を精選して年間指導計画に位置付けた。

- 道徳科、総合的な学習の時間、特別活動の全体計画及び指導計画等について見直し、改善した。
- 学習指導案や教材、資料等を校内で共有できる体制を整えた。

### 道徳教育

- 校長の指導方針の下、道徳教育推進教師等を中心とした推進体制を整備した。
- 学校としての課題を踏まえた特色ある「道徳教育の全体計画」を作成した。
- 道徳教育及び各学年の重点目標を設定し、重点的指導事項について計画した。
- 学校の実態に応じた「道徳科の年間指導計画」を作成した。
- 各学年に全ての内容項目及び重点的に指導しようとする内容項目を位置付けた。
- 道徳教育と関連する各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期、道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期、道徳教育の推進体制、家庭や地域との連携の方法等を「別葉」等に示した。
- 道徳科の年間指導計画に1時間ごとの大要を示した。また、郷土資料集等の関連資料の活用を位置付けた。
- 評価について教師間で検討し、評価の視点などについて共通理解を図った。
- 学習指導案や教材、資料等を共有できる体制を整えた。
- 保護者が参観する道徳科の授業の実施計画を作成した。
- 「とちぎの子どもたちへの教え」及び同指導事例集について確認した。
- 「道徳教育ハンドブック」「『考え、議論する道徳』の授業づくり」等を参考に授業の工夫、改善について検討した。

### 外国語活動・外国語科（小学校）

- 学習指導要領の外国語活動・外国語科の目標及び内容を確認した。
- 児童の実態や地域の実情に応じて学年ごとの目標(中学年)や学習到達目標(高学年)を定めた。
- 「Let's Try!」及び同指導編、年間指導計画、CAN-DO リスト、デジタル教材等を活用できるようにした。
- 評価について教師間で検討し、評価の視点などについて共通理解を図った。
- 作成した教材・教具を整理・保管し、共有できるようにした。
- 文部科学省 DVD「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践映像資料 2・3(小学校編)」及び「英語教育推進リーダー中央研修 DVD 教材」を視聴し、指導力の向上を図った。

### 総合的な学習の時間

- 各学校において定める目標について、各学校の教育目標を踏まえるとともに、育成を目指す資質・能力が明確になるよう見直しを行った。
- 各学校において定める内容について、目標の実現にふさわしい探究課題となるよう見直しを行った。
- 体験活動を適切に位置付けるなど、目標・内容に基づいた指導計画の見直しを行った。
  - ・プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける学習活動を行う場合には、探究的な学習の過程に適切に位置付ける。(小学校令和2年度～)
- 各学校が定めた目標と内容に基づいた評価の観点・評価規準となるよう見直しを行った。
- 全体計画に以下の内容を示した。(※「芳賀の教育」HP版 Q&A集 学習指導 H31 参照)

- ① 各学校における教育目標、各学校において定める目標、各学校において定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力）
  - ② 学習活動、指導方法、指導体制（環境整備、外部との連携を含む）、学習の評価
  - ③ その他、年度の重点、地域の実態、学校の実態、児童生徒の実態、保護者の願い、地域の願い、教職員の願い、各教科等との関連、地域との連携、小・中学校との連携、近隣学校との連携など、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの
- 年間指導計画に、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定時数等を示した。
  - 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という過程を重視し、それらが発展的に繰り返される指導計画を作成した。
  - 各学年の指導計画に、単元の指導計画および学習の評価計画を示した。
  - 学習指導案や教材、資料等が共有できる体制を整えた。
  - 学校行事との関連を図る活動では、総合的な学習の時間の目標に即した活動を探究活動の一環として位置付けた。
  - 総合的な学習の時間の趣旨やねらいを全教職員で再確認した。

### **特別活動**

- 特別活動の全体計画及び学習指導要領の目標や特別活動の特質に沿って各学校で定めた評価の観点の見直しを行った。
- 学級活動(1)(2)(3)、児童会（生徒会）活動、クラブ活動、学校行事（儀式的、文化的、健康安全・体育的、遠足・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的行事）それぞれの評価規準、年間指導計画及び評価計画の見直しを行った。
  - ・学級活動：学校としての年間指導計画と学級ごとの年間指導計画及び評価計画
  - ・児童会（生徒会）活動：各委員会の年間指導計画及び評価計画
  - ・クラブ活動：各クラブの年間指導計画及び評価計画
  - ・学校行事：各行事の年間指導計画及び評価計画
- 学級活動の内容(1)(2)(3)について、それぞれの学習過程や内容の特質等について確認するとともに、バランスよく実施できるよう計画した。
- 学級活動、学校行事においては、学習指導要領に示されている内容の全てを全学年で実施できるよう計画した。
- 学校行事をねらいとの関連から見直し、改善した。
  - ・知能検査を予備時数に位置付けた。
  - ・学校行事の準備と後片付けを「儀式的行事」ではなく「勤労生産・奉仕的行事」に位置付けている場合は、内容がねらいに即しているものであるかを見直し、指導計画を改善した。
  - ・学校行事の実施をもって、総合的な学習の時間の実施としていないか見直し、適切でないものについては指導計画を改善した。
- 突発的な事故や災害にも対処できるよう、危機管理マニュアル及び避難訓練のあり方を見直し、全教職員の共通理解の下、計画を改善した。
- 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などについて確認・検討した。
- 全学年でキャリア・パスポートを活用し、次年度（進学先含む）へ引き継いだ。

〇ここで示したものは、参考例の一つである。学習指導要領等の趣旨を踏まえ、学校としての形式を定めることが必要である。

令和 年 月 日 ( ) 第 校時  
第 学年 組 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 (小単元名、または題材名)

〇国語科は「単元名」、「教材名」を併記する場合もあり、「単元名」は、言語活動が分かるように記載できるとよい。音楽、図画工作等は「題材名」とする場合が多い。

2 単元の目標 (小単元の目標、または題材の目標)

- (1) ~することができる。/~を身に付けること。・・・等 (知識及び技能)
- (2) ~することができる。/~を振り返ること。・・・等 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ~しようとする。/~する態度を養うこと。・・・等 (学びに向かう力、人間性等)

①単元の目標を評価の観点別に示したり、全ての評価の観点を含んだ文章で (外国語科等) 示したりする。  
②教科等により、目標の文末表現が異なっているため、国立教育政策研究所や県教委の資料等を参考にする。  
③「外国語科」の場合は、各学校で作成している「CAN・DOリスト」の形での「学習到達目標」との関連を明記する。

3 単元の評価規準 (題材の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〇文末を「~している。」として作成する。「技能」については、「~する技能を身に付けている」状況を「~できる。」として示す教科もある。		〇文末を「~しようとしている。」として作成する。

4 単元について (小単元または題材について)

〇教科の特性を踏まえて、教材の系統性や他教科との関連を(1)、(2)、(3)のいずれかに示すことも考えられる。

(1) 教材観

①学習指導要領の内容を踏まえ、本単元が、学習指導要領の目標及び内容のうち、どの目標及び内容を受けて構成しているのかを記述する。そして本単元で押さえるべき指導事項について学習内容・学習活動を明らかにする。  
②本教材がどんな価値や本質をもった教材であるかを把握して記述する。

(2) 児童 (生徒) の実態

〇単元の指導に直結しない実態 (「明るい学級」「算数が好きな子が多い」など) は記述せずに、下記①~③のとおり、本単元を進めていく前提としての実態を分析的に記述する。したがって、アンケート調査をする際は「学級の状態」や「教科の好き嫌い」といった教科に対する情意面などではなく、単元の指導に関わる内容を問うことが望まれる。

①単元に関わる児童 (生徒) の実態を調査し、その結果を分析して記述する。  
②児童 (生徒) の実態は、「学習の定着度」「学習スタイル」「興味・関心」「学習スピード」「生活経験」など複数の観点から把握することや、学校課題 (研究主題) に関わる視点から把握することなどが考えられる。  
③実態調査の分析・考察については、成果や課題等を記述し、「(3)指導観」における単元の目標を達成するための指導・手立てや、個を生かす指導につなげる。

(3) 指導観

①「2 単元の目標」や「(1)教材観」、「(2)児童 (生徒) の実態」を踏まえ、目標を達成するための指導・手立て等について記述する。  
②基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、それらを活用して思考力、判断力、表現力等を育成することを意識した指導を具体的に記述することも考えられる。  
③目標を達成するために効果的な言語活動を示したり、教材・教具、資料、活動形態、個を生かす支援など、単元において指導に生かせる手立てや工夫等について記述したりする。  
④当該単元において身に付けさせたい力を明確にし、その指導事項のために最適な言語活動はどのようなものであるかを考える。そして教科のねらいの達成のために、単元全体を見通して、適切などころにその言語活動を位置付けるようにする。

## 5 人権教育との関連

- 単元の目標、学習内容と本校における人権教育の「育てたい資質・能力等」（知性・判断力・感受性・技能・実践力）との関わりについて記述する。
- 芳賀の教育 HP 版 Q&A集 人権教育 H25「Q6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか」参照

## 6 学校課題との関連（研究学校等においては、研究主題との関連）

- ①学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）に迫るための授業の組立や指導の重点などを単元（小単元、又は題材）レベルで記述する。その際、研究の内容に即して記述することが大切である。
- ②教科ごとの課題（研究テーマ）がある場合は、それぞれの課題との関連で記述することも考えられる。

## 7 単元の指導と評価の計画（○時間扱い）

- ①年間指導計画の下に、単元の目標（ねらい）を踏まえて単元全体を見通し、指導順序と時間数を明記するとともに、本時の位置付けを明確にする。目標（ねらい）、主な学習活動、指導上の留意点（又は教師の支援）、評価規準等について記述する。特に、本時の展開との整合性を図るようにする。
- ②単位時間ごとの目標（ねらい）、主な学習活動、指導上の留意点（又は教師の支援）、評価規準等について記述する。

### 【単元の指導と評価の計画（○時間扱い）の例】

○学習内容と学習活動を別枠で示したり、□で囲んだりして明確に分けて記述することも考えられる。

○「教師の指導及び手立て」とし、この欄に「努力を要する状況と判断される児童（生徒）」への指導の手立てを記述することも考えられる。

○学習活動に即した評価規準  
○ここに示した評価規準をそのまま「(6)展開」の評価規準として記述する。

○ここに示した手立てについては、「(6)展開」の「評価（評価方法）」や「指導上の留意点」の欄に記述する。

	目標 (ねらい)	主な学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準 (評価方法)	努力を要する状況と判断される児童（生徒）への指導の手立て
				知・技	思・判・表	態度		

○「(6)展開」の評価の欄に載せる場合は、そのまま記述する。

○「目標」、「主な学習内容・学習活動」、「指導上の留意点」、「評価の重点」、「評価規準」、「努力を要する状況と判断される児童(生徒)への指導の手立て」の各項目の1単位時間ごとの横の整合性を図る。

1 本時	○本時の目標（ねらい）を記述する。	○本時の主な学習内容・学習活動を記述する。	○児童(生徒)の活動を促進させるための留意点等を記述する。	①			○評価規準を記述する。 ○評価方法も（ ）内に記述する。	○予想される状況とその手立てを簡潔に記述する
2								
3								
4								

○「8 本時の指導（6）展開」（本時の展開）は、ここに示した指導と評価の計画をより詳細に、具体的に示すことになる。  
○本時は、太枠で示すと分かりやすい。

○単元や題材など内容や時間のまともを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価する。  
○「記録に残す評価」については、各観点について評価の場面を精選し、どこで評価するかわかるように記述する。

○記：「記録に残す評価」の記載例

○評価規準から、より高まり深まった状況を実現していると判断される児童(生徒)の姿の例を「十分満足できる状況」として記述する場合もある。（キーワードによる記述もある。）

- 国立教育政策研究所の参考資料に、様々な形式が示されているので、参考にする。
- A4判を横にして使い、別紙として示すことも考えられる。
- 1単位時間の中の各項目の横の整合性及び指導案全体としての「2 単元の目標」から「7 本時の指導」までの縦の整合性を図るようにする。

## 8 本時の指導

### (1) 題材名、または教材名

○「7 単元の指導と評価の計画」との整合を図る。

### (2) 目標（またはねらい）

○本時の目標（ねらい）をわかりやすく記述する。（ ）で評価の観点を記述する方法も考えられる。児童(生徒)に提示するめあてや学習課題及び本時の評価規準との整合性を図る。

### (3) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点

○本時において、学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）にどのように迫るのかを記述する。その際、課題説明の手立てや研究の内容に即して記述することが大切である。

### (4) 人権教育の視点

○本時の目標（ねらい）、学習内容や指導方法と、「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。ここでの視点が、展開の「人権教育上の配慮」において具体的な記述となる。

### (5) 生かしたい児童（生徒）

○各教科等で「人権に配慮した授業」を実践するためには、「人権教育との関連、人権教育の視点、人権教育上の配慮、生かしたい児童（生徒）」を適切に位置付けることが必要である。集団の中で疎外されたり、不適応を起こしたりしがちな児童生徒を、「配慮を要する児童(生徒)」と捉え、その実態を踏まえて意図的・計画的に適切な支援をしていくことや児童生徒のよさを捉え、指導に生かし伸ばしていくという積極的な観点から捉えることが求められる。

○「生かしたい児童（生徒）」の設定の仕方の例

- ①「人権教育の視点」として、本時の目標（ねらい）や学習内容、指導方法（学習形態など）が「育てたい資質・能力等」とどのように関連しているかについて捉える。
- ②「人権教育上の配慮」として「育てたい資質・能力等」を身に付けるための支援や配慮事項、学習指導における基底的指導にかかわる配慮事項などを、学習内容、指導方法の両面について具体的に押さえる。
- ③本時の中で配慮したい児童(生徒)を「生かしたい児童（生徒）」として捉え、意図的に指導や支援を行う。

人権教育に関する指導案への記載については、「芳賀の教育 HP 版 Q&A 集 人権教育」を参考にする。

H19「Q 6 各教科等の授業において『生かしたい児童生徒』を設定する際、どのような点に留意すればよいか。」

H25「Q 6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか？」

### (6) 展開（次頁参照）

### (7) その他

○学校課題や研究内容及び教科等の特性などを踏まえ、必要に応じて、板書計画、発問計画、場の設定、ワークシート（別紙）などの項立てをして、記述することも考えられる。

(6) 展開

【展開の例】

○教科の特質が見えるようにする。(例えば、算数ならば必要な数値、式、図表、グラフなど含めて記述する。)

○形式については、A4横版で作成することも考えられる。

○TTの場合は、この欄をT1とT2に縦に区切り、役割を明確にして記述することも考えられる。なお、T1やT2以外の授業への参観者は 授業参観のマナーとして、児童(生徒)に指導・助言をしたり、ヒントを与えたりしないようにすることが望まれる。

○学習活動とは、この学習内容を具体的に理解するための活動である。  
○学習活動(太字)は、児童(生徒)の立場で記述する。

○指導上の留意点(太字)は教師の立場で記述する。

○学校課題との関係性も大権教育上の配慮

学習活動	時間	形態	指導上の留意点等	資料	評価(評価方法)
○本時のめあて、学習課題、学習活動、指導上の留意点、評価(評価規準)等の横の整合性を図る。					
1 本時のめあてを設定する <b>小学校体育科保健領域の学習例</b>	導入	一斉	・既習事項を児童と確認しながら児童の発言を生かして本時のめあてを設定する。		
<p>【学習課題】 どうすればけがを防止することができるだろう。</p> <p>【めあて】 ○○について○○○○できる。</p> <p>発問1 ○○○～でしょうか。</p> <p>(予想される反応) ・○○○○○ ・○○○○○ ・○○○○○</p> <p>説明1 ・○○○○○</p>			<p>○本時の「目標(ねらい)」を児童(生徒)に提示する際は、「めあて」として提示する。教師から一方的に提示せず、児童(生徒)とのやり取りを大切にして設定する。</p> <p>○一時間の授業(学習のまとまりごと)のめあてを、 ①発達の段階に応じて分かりやすい言葉で設定する。 ②板書や掲示をするなど、はっきりと示す。 ③教科の特質に応じて、「何が」、「どのように」、「どのくらい」できればよいのか分かるようにできるだけ具体的に設定する。 ④示す方法や示すタイミングについても学習内容や学習活動などに応じて工夫する。その際、体験と関連付けたり、既習事項を想起させたりする。</p> <p>○ここには以下のような内容について、授業の流れをイメージしながらできるだけ詳しく記述する。 ・授業の留意点、指示、説明、支援・指導の内容、及び「努力を要する状況と判断される児童(生徒)」への手立て ・学習内容を理解するための学習活動についての、補足説明、教師側の留意点、つまづいている児童(生徒)へ講じる具体的手立て、発展的学習の用意、指導上の留意点 ・教師の発問、指示、説明、予想される反応、それに対する対応・手立て(発問、指示、説明、予想される反応は、学習活動の欄に記述してもよい。)等</p> <p>○通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童(生徒)への配慮事項を記述する場合は、この欄に記入する。</p> <p>○本時の「目標(ねらい)」、「めあて」と「評価規準」との間に整合性を図る。 ○「7単元の指導と評価の計画」の評価規準とも整合性を図る。</p>		
2 ○○について予想し、自分の考えを付箋紙に書き出して説明する。	30	グループ	・○○について予想させ、自分の考えを付箋紙に書き出させて説明させる。	・付箋紙 ・模造紙 ・マジック ・ノート	<p>【評価規準】【思・判・表】</p> <p>・○○○～○○○ (観察・ [十分満足できる])</p> <p>・○○○～○○○ (観察・ [努力を要する状況と判断される児童(生徒)の姿の例を記載することも考えられる])</p> <p>○の場合、○○するよ</p>
<p>発問2・指示1 ○○は、～ですか。</p> <p>○教科の特性や単元によっては、毎時間 本時のまとめを設定する必要はない。 ○「まとめ」と「振り返り」は別の活動である点に注意する。</p>			<p>○必要に応じて、本時の目標(ねらい)を達成するために適切な言語活動を位置付け、思考力、判断力、表現力等を育む。</p> <p>○教師による評価、自己評価、相互評価など。 ○本時の「目標(ねらい)」や「めあて」と照らし合わせて、教師による評価、自己評価、相互評価等で振り返りをさせる。記号化による簡易的な評価に偏ることなく、文章による記述も取り入れ、目標(ねらい)、めあての達成具合を更に細かに見取るなど方法を工夫し、次の指導に生かせるものにする。</p>		
4 本時のまとめをする	5	個人			<p>○「努力を要する状況と判断される児童(生徒)」への指導の手立てについては、「指導上の留意点」の欄に示すことも考えられる。</p>
5 本時の学習を振り返る。	3	個人			
<p>・ノートに自己評価、相互評価をし、発言を振り返る。</p> <p>・教師の話を聞く。</p>			<p>○本時のめあてに応じた振り返りを行わせる。 ○教科によっては評価問題を解かせることも考えられる。</p>		

【参考資料】

- ・「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」(小・中学校編) R02.7、R02.12 県教委
- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(各教科等) R02.3 国立教育政策研究所

令和 年 月 日（ ）第 校時  
第 学年 組 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名（小単元名、または題材名）

2 単元の目標（小単元の目標、または題材の目標）

- (1) (知識及び技能)
- (2) (思考力、判断力、表現力等)
- (3) (学びに向かう力、人間性等)

書き方については、各指導案参考例を参照。

3 単元の指導と評価の計画（〇時間扱い）

	目標 (ねらい)	主な学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準 (評価方法)	努力を要する状況と判断される児童(生徒)への 指導の手立て
				知 技	思 判 表	態 度		
1								
2								
3 本 時								
4								

(記：記録に残す評価)

4 本時の指導

- (1) 目標（またはねらい）
- (2) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点
- (3) 展開（別紙）  
書き方については、各指導案参考例を参照すること

道徳科学習指導案

令和 年 月 日 ( ) 第 校時  
第 学年 組 指導者 ○ ○ ○ ○

学習指導要領の内容の表記で記載する

1 主題名 <例> きまりの大切さ 【C 規則の尊重】

- 主題名は、年間指導計画をもとに記入する。
- 主題名は、シンプルで分かりやすい表現とする。
  - ・教師の思いが込められた授業のテーマであること
  - ・ねらいを凝縮したものであること
  - ・児童（生徒）にとって学びの指針であること

2 教材名 <例> 「きまりのない学校」

(出典 日本文教出版 小学校道徳「生きる力〇年」)

(出典 東京書籍 新しい道徳〇年)

- 教材名は、年間指導計画をもとに記入する。(出版元や書名、制作元を明確にする)
- 主たる教材としては、教科用図書を使用しなければならない。そのため、教材を安易に変更することは避ける。変更や修正を行う場合は、児童（生徒）の道徳性を養うという観点から考えて、より大きな期待ができるという判断を前提とし、学年やブロック等による検討を経て、校長の了解を得て行う。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

- 学習指導要領や解説を熟読して、授業で行う内容項目を、教師自身が深く理解する。
- 授業で行う内容項目については、担当学年の内容項目だけでなく、小・中学校の内容項目を熟読し、児童（生徒）の発達段階や指導の系統性を理解する。
- 学習指導要領や解説を熟読して理解したことを、教師自身が上記の2点を踏まえて、ねらいとする価値の捉え方を分かりやすく記述する。

(2) 児童（生徒）の実態について

- ねらいとする価値に対して道徳科の時間やそれ以外の教育活動でどのような指導を行ってきたか、その結果、児童（生徒）がねらいとする道徳的価値についてどのような状態にあるのか記述する。さらに、ねらいとする価値に関する児童（生徒）の実態を把握する方法として、日常の行動における教師の見取りや主題に関する児童（生徒）へのアンケートなどが考えられる。
- 児童（生徒）のよさや可能性を把握して丁寧に記述する。
- 児童（生徒）の課題も整理し、教師の願いなどにも触れる。

(3) 教材について

- 教師が教材をどのように捉え、どのように扱うかを記述する。
- あらずじに終始することなく、一番大事にしたい場面がどこかを記述する。
- 内容や要点、登場人物の気持ち、発問への生かし方などについて記述する。

#### 4 学校課題との関連（研究学校等においては、研究主題との関連）

本時において学校課題（研究主題）と関連がある場合は、ねらいや児童（生徒）の実態、指導過程などに応じて工夫した指導内容について記述する。

#### 5 ねらい

- 設定に際しては、複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。
- 理解を図る道徳的価値を明確に位置付ける。
- 文末表現については、道徳性を構成するどの諸様相に重点があるのかを明確にする。  
（道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲と態度）

「～を通して、～を理解し、～しようとする（判断力・心情・態度）を（高める・育てる・養う）。」

「絵はがきと切手」の文例

- （視点① 教材の中心となる内容） 料金不足だったことを知らせるかどうかを悩むひろ子の気持ちを考えることを**を通して**、
- （視点② 取り上げる道徳的価値） よりよい友だちであるためにはどのようなことが大切かを**理解し**、
- （視点③ ねらいとする道徳性） 互いに信頼し、助け合おうとする**心情を育てる**。

#### 6 人権教育の視点

本時のねらいや内容、指導方法（学習形態など）が、人権教育の「育てたい資質・能力等」とどのように関連しているかを記述する。ここでの視点が、展開の「人権教育上の配慮」において具体的な記述となる。

- 芳賀の教育 HP 版 Q&A集 人権教育 H25「Q6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか」参照

#### 7 生かしたい児童（生徒）

本時の中で、特に「よさを伸ばす」「配慮を要する」などの視点から、児童（生徒）への指導・支援を記述する。

- 芳賀の教育 HP 版 Q&A集 人権教育 H19「Q6 各教科等の授業において『生かしたい児童生徒』を設定する際、どのような点に留意すればよいか」参照

#### 8 他の教育活動との関連

特に関連のある教育活動、体験活動、日常生活との関連、事前の指導や事後の指導の工夫などについて記述する。

4で「学校課題との関連」を記述した場合は、記入する。

□中心発問 ◎学校課題との関連 ○人権教育上の配慮

指導過程	学習活動と主な発問	時間	予想される児童(生徒)の反応	教師の支援	資料
導 入	<p>「指導上の留意点」とも表記できる。</p> <p>○価値への方向付けを図る。主題に対する興味や関心を高め学習意欲を喚起、動機付けを図る。                      ・児童(生徒)の心を引きつけ、話し合おうとする問題に児童(生徒)の気持ちを焦点化する。                      ・絵や写真、日記、ニュース、調査結果などを基に児童(生徒)の心を揺さぶり、問題意識を掘り起こす。                      ・直接、「友情」などと、扱う価値を板書して考えさせる方法もある。                      &lt;発問等の例&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・～したこと(できなかったこと)はありませんか。</li> <li>・～について、これまでどう考えてきましたか。</li> <li>・今日は～について話し合ってみましょう。</li> <li>・この話には○○という人が出てきます。</li> <li>・話の場所は～という所です。</li> <li>・話は～の時代で～という様子でした。</li> </ul> </p>				
	展 開	前 段	<p>○【価値理解】教材を通して道徳的価値の理解に向けて話し合う段階。                      ・児童(生徒)が教材中の主人公に共感したり、主人公の行為を検討したりして道徳的価値を追求する。                      ・道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解できるようにする。(人間理解)                      ・他の人の考え方を知ること(他者理解)で自分の考えをさらに深めたり変えたりするために、学級の実態や発達の段階に応じて、グループなどで話し合う時間をとることが望ましい。                      ・前段の終わりに、道徳的価値の理解を図る。教材の中での主人公の思いを整理し、何が明らかになったか(大切であったか)を確かめる。ただし、道徳的価値について「考え、議論する」場合は、意見を一つにまとめる必要はなく、多面的・多角的な考えを尊重する。                      &lt;前段から後段につなげる価値理解の発問例&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は主人公の気持ちを考えてきました。この話からどんなことを学びましたか。(どのようなことが大切だと思いましたか。)</li> <li>・□□とはどういうことだと思いますか。</li> <li>・主人公の生き方から何を学びましたか。</li> <li>・主人公にどんな言葉をかけたいですか。</li> </ul> </p>		
後 段		<p>○【自己理解】教材を通して理解した道徳的価値に基づいて、教材から離れ、自己を見つめる段階。                      ・話し合ったことを生かし、主題と関連して、これまでの自分を振り返り、自己を見つめたり自己の生き方を考えたりする。                      &lt;発問の例&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分はどうであったか振り返ってみましょう。</li> <li>・同じような経験はありませんか。見たことや聞いたことはありませんか。</li> </ul> </p>			
終 末	<p>○ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、実現することのよさや難しさなどを確認したりする。                      ・ねらいとする道徳的価値について整理し、今後の自分のことについて見通しや意欲をもてるようにする。                      ・実践を図る段階ではないので、「これからどうしますか」「どうしたいですか」などの問いかけや「決意表明」を求めない。(学級活動と異なる点)                      ・余韻や感情の高まりを大切にする。                      &lt;終末の例&gt;                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生にも、かつてこんな経験が・・・(説話)</li> <li>・授業を通して考えたこと感じたことを書きましょう。</li> <li>・先生が一人一人にお手紙を書きました。(メッセージ)</li> <li>・昔から～と言われています。(格言、ことわざ)</li> <li>・友だちの作文を読みます。(作文)</li> <li>・音楽や動画の視聴</li> <li>・ゲストティーチャーの話 等</li> </ul> </p>				

## 10 評価

○児童（生徒）と教師、両者の視点と観点を具体的に設定して記述するようにする。

### (1) 評価の視点（児童・生徒の学習状況に関すること）

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子（学びの姿）を継続的に把握すること。  
一人一人の成長を認め、励ます個人内評価であること。

○一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展していたかという視点

〈例〉・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。  
・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。  
・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や、そのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。

○道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていたかという視点

〈例〉・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。  
・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている。  
・学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。

### (2) 評価の観点（教師の指導方法に関すること）

教師自らが指導を振り返り、目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの。

〈例〉・学習指導過程は、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。  
・指導の手立ては、ねらいに即した適切なものであったか。  
・発問は指導の意図に基づいて的確になされていたか。  
・発問に対する児童（生徒）の発言等の反応を、適切に指導に生かしていたか。  
・自分自身との関わりで、物事を多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。  
・指導方法は、児童（生徒）の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。  
・特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。  
※芳賀の教育Q&A集 道徳教育 H30「特別な教科 道徳」の評価を行う際の留意点について教えてほしい」参照

## 11 教材分析

○場面ごとに、ねらいとする価値の追求を行いながら、基本発問や中心発問を吟味、分析し、明らかにする。

（事実、主人公の気持ち、中心発問、基本発問、補助発問等を明示する。）

◇基本発問…導入、展開、終末各段階で、ねらいに迫るために不可欠な発問。

◇中心発問…授業のねらいに直接迫る発問。

（教材を通して自己を見つめさせる場面での発問。）

◇補助発問…かみくだきや問い返しなど、基本発問や中心発問を補う発問。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

議題名(×) → 議題(○)

令和 年 月 日( ) 第 校時  
第 学年 組 指導者 ○○ ○○

1 議題 ○○○をしよう

○1単位時間ごとに「評価規準」を作成せず、学校で作成(小学校は低・中・高学年別に作成)したものをそのまま掲載する。計画委員、話し合い、集会活動の形態別に示すことも考えられる。

2 評価規準と目指す児童(生徒)の姿

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決する。他者と協働して取り組むこと。多様性を理解している。合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活を良くするための課題を見いだすことができる。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、実践している。	学級や学校人間における関係をよりよくし、他者と協働しながら日常生活の高揚を図ろうとしている。
目指す姿	<p>○学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が特別活動共通の評価の観点( )の部分)を定める。</p> <p>○学級活動(1)の評価規準(学校として見定めた評価の観点ごとに、発達の段階に即して設定した評価規準)を踏まえ、本議題のねらい、内容、学級の実態に即して、十分満足できる活動の状況を、「目指す児童(生徒)の姿」として記述する。丁寧に「計画委員」、「話し合い」、「集会活動」などに分けて記述することも考えられる。</p> <p>○「目指す児童(生徒)の姿」は、観点ごとに記述する。事前、本時、事後の活動全体を通して、各観点をバランスよく設定することが望ましいが、必ずしも本時の中で全ての観点を評価する必要はない。例えば、事前で「主体的態度」を、本時で「知識・技能」と「思考・判断・表現」を、事後に「思考・判断・表現」と「主体的態度」を中心に評価することも考えられる。</p>		

【参照】

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校・中学校 特別活動 R2.6) 国研

「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料(小学校 R2.7・中学校 R3.1)」 県教委

3 議題について

- 児童(生徒)自らが「学級や学校の生活づくり」について問題を見だし、計画・実践する実践的態度についての現状を記述する。
- 議題が選定された背景や、この議題を学級全体が取り組むことで学級や学校生活がどのように向上し、児童(生徒)一人一人にどのような態度が身に付くことが期待できるかについて、教師の願いや指導観等を記述する。

(1) 児童(生徒)の実態

- 児童(生徒)の学級生活における実態、これまでの学級活動の取組やその状況を具体的に記述する。
- 当該学年の評価規準から、話し合い活動における課題や目指す方向性などについて記述する。

(2) 議題選定の理由

- 取り上げる議題の内容、今まで取り組んできたこととの関連、その議題を取り上げる意義、議題と児童(生徒)との関連などについて具体的に記述する。
- 評価との関わり(それまでの話し合い活動の取組、本時の活動を見取る観点など)について記述する。

(3) 指導観

- 議題のねらいや児童(生徒)の実態を踏まえながら、ねらいを達成するための指導や支援の手立てなどについて、指導の流れに沿って具体的に記述する。
- 議題やねらい、活動に応じて、教材・教具、資料の選択、グループ活動や事前・本時・事後の活動、様々な表現の場づくりなどを具体的に示すような記述に努める。

4 学校課題(研究主題)との関連

○学校課題と関連がある場合は、学校課題(研究主題)に迫るための授業の組立や指導の重点、具体的な手立てなどを議題レベルでまとめる。

5 人権教育の視点

○本時のねらいや学習内容、指導方法と「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。  
○芳賀の教育 HP 版 Q&A集 人権教育 H25「Q6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか」参照

6 生かしたい児童(生徒)

○学習指導案参考例 P.33 の8(5)。

7 他の教育活動との関連

○特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連について記述する。

8 活動及び指導と評価の計画

○本時だけでなく、事前、事後の活動も記述する。  
※参照：芳賀の教育 HP 版 Q&A集 特別活動 H23  
Q4「学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。」  
※基本的な流れや考え方は同じだが、旧学習指導要領の文言が使われている点に要注意。

	日時 【活動形態】	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 と評価方法
		<p>○以下のような「問題の発見」から「振り返り」までの全員の活動や評価委員会の活動について記述する。</p> <p>○「朝や帰りの会など、どの時間で行う予定か」(日時)や「計画委員の活動か全員の活動か」(活動形態)なども記述</p>	<p>○以下のように、児童(生徒)が左の活動を行う上で、何をどのように工夫したり配慮したりするかなどを記述する。 ○指導者の立場で書く。 ○準備物や具体的な手立てを記述する。</p>	<p>○評価規準に即して、一連の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。 ○事前・本時・事後の活動の中で、どのように目指す児童(生徒)像が位置付けられているかが分かるように記述する。 ○以下のような評価の例が考えられる。</p>
事前	<p>話し合いの準備</p> <p>○/○(○) (昼休み) 【計画委員会】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活向上に関わる諸問題を見付け、提案をする。</li> <li>実態、学級経営の充実などの観点から議題を選定する。</li> <li>議題や提案理由を知って、各自が意見をもつ。</li> <li>話し合いの柱や順番などを見定め、活動計画を作成する。</li> </ul>	<p>○事前や事後の活動については、回数(日時)に応じて区切り線を入れそれぞれ記述する。</p>	<p>【主体的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○○○○の会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul> <p>【観察、学級会ノート】</p>
本時	<p>話し合い</p> <p>○/○(○) (第○校時) 【学級全員】</p>	<p>【学級活動(1)】 [集団討議による 集団としての合意形成]</p>	<p>※「(2)本時の展開」参照</p>	<p>※「(2)本時の展開」参照</p> <p>○太線で囲むなどして、本時の位置付けを明確にする。</p>
事後	<p>実行</p> <p>○/○(○) (第○校時) 【学級全員】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごと、または役割分担に従ってに準備をする。</li> <li>集会活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○○の児童(生徒)には、○○の助言や励ましを行い、よりよく実行できるようにする。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成したことをもとにみんなで協力し、責任を果たして計画的に活動している。</li> </ul> <p>【観察・努力カード】</p>
	<p>振り返り</p> <p>○/○(○) (第○校時) 【学級全員】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体や個人としてよかったこと、改善点などについて話し合い、次の活動に生かす点を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○○の視点を与え、よかった点と問題を次に生かす点を明らかにすることができるようになる。</li> </ul>	<p>【主体的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自他のがんばりや問題について考え、次に生かす点を明らかにしている。</li> </ul> <p>【観察・振り返りカード】</p>

## 9 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- 提案理由を踏まえた話し合いを展開するために本時の活動で特に留意する点を考え、簡潔に記述する。
- 観点別に、一つないし二つ程度のねらいを記述する。
- 評価規準・本時における目指す児童(生徒)の姿との関連を図り記述する。

### (2) 本時の展開

- 本時の展開は、実態に応じて児童(生徒)が作成した活動計画(手書き)をそのまま活用してもよい。
- 教師が作成した指導計画を示す場合は、「児童(生徒)が作成した活動計画」を、別に添付するとよい。
- 展開や指導上の留意点を読んで児童(生徒)の活動が把握できるように、できるだけ具体的に記述する。
- 指導上の留意点に教師の指導・支援を記述する。その際、児童(生徒)の学習活動への働きかけやその手立て、助言などを具体的に記述する。
- 特に支援したい児童(生徒)については、「6 生かしたい児童(生徒)」との整合性を図り、具体的な手立てをして指導・支援ができるよう記述する。
- 評価は、評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。

- 児童(生徒)が作成した活動計画(例)
- 次ページ「※2 児童の活動計画(例)(児童の考えた活動計画)」参照。

### 第 回 学級活動(話し合い)の計画

令和 年 月 日 ( ) 第 校時

議題	〇〇をしよう	
提案理由	※教師とともにつくった提案について書く。	
役割分担	※司会、黒板記録、ノート記録、提案者などの児童(生徒)名を記入する。 (一般的に、中学校では、議長、黒板書記、ノート書記という名称を使っている。)	
話し合いの順序	時間	気を付けること
1 はじめのことば		
2 計画委員の紹介		
3 議題・提案理由の確認		
4 話し合い		
①〇〇をどうするか		
②〇〇を決めよう		
5 決まったことの発表		
6 先生の話		
7 おわりのことば		

○次ページ「※1 板書計画(例)(児童の考えた板書計画)」参照。

- 計画委員の児童(生徒)が、進行に即して気を付けることを記述する。あらかじめ「学級活動(話し合い)の計画」の様式を決め印刷しておき、児童(生徒)が書き込めるようにしておくことよい。
- 児童(生徒)が作成した活動計画を使用する場合には、教師の「指導上の留意点」が記述されていないため、(3)として新たに項立てをして別に記述することになる。

- 教師が作成した指導計画(例)
- 項立てについては、児童(生徒)が作成した活動計画に「指導上の留意点」「目指す児童(生徒)の姿と評価方法」を組み合わせることも考えられる。

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿と評価方法
1 はじめのことば		
2 計画委員の紹介		
3 議題の確認		
4 話し合い		
①〇〇をどうするか。		
②〇〇を決めよう。		
5 決まったことの発表		
6 先生の話		
7 おわりのことば		

- 「(2) 本時の展開」において「教師が作成した指導計画」を示す場合、「指導上の留意点」は、話し合い(「出し合う」→「くらべ合う」→「まとめる(決める)」)の流れに即して、丁寧に示すことも考えられる。
- 教師が、児童(生徒)の実態を踏まえ、活動を見守りながらも、よりスムーズに深まりのある話し合いができるようになるための助言などを記述しておく。

- 評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。
- 「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童(生徒)の姿をいくつか想定しておくようにする。

### (3) 指導上の留意点

- 「(2) 本時の展開」において「児童(生徒)が作成した活動計画」のみを活用する場合は、(3)として「指導上の留意点」を新たに項立てして記述する。その際、「教師が作成した指導計画」を「(3) 指導上の留意点」として丁寧に示すことも考えられる。

- ・〇〇状況(場面では)になったら、〇〇の助言をする。(収束の道筋に即した助言等)
- ・〇〇の児童(生徒)には、〇〇の指導をする。(個に応じた助言等)

## 10 事後指導

- ・見通しをもった計画的な活動、継続的な努力、役割や責任を果たすこと、よりよい人間関係を築くことなどができるようにするために〇〇〇〇をする。など
- ・振り返りを通して成果が実感できるようにし、「自分(たち)もやればできる」という達成感が味わえるようにする。など

※1 板書計画例 (児童の考えた板書計画※手書き)

<p>・決まったこと</p>	<p>役割分担を決めよう</p>	<p>・話し合うこと3</p>	<p>どんな工夫ができるか</p>	<p>・話し合うこと2</p>	<p>意見を「出し合う」 出された意見を「くらべ合う」 意見を「まとめる(決める)」 この活動が、話し合いの流れの基本。</p>	<p>・話し合うこと1 内容をどうするか</p>	<p>話し合いのめあて</p> <p>○みんながなつとくできる話し合いにしよう ○みんなのがんばりが分かる会になるように工夫を考えよう</p>	<p>提案理由 ..... ..... ..... ..... ..... ..... ..... ..... ..... .....</p>	<p>議題 五年生ががんばったね会をしよう</p>	<p>10月12日 火曜 日直 第9回 学級会</p>
<p>※意見や話し合いの流れを可視化するために、小黑板や短冊などを用い、似ている意見でまとめたり、分類したりするなど、黑板上で操作できるように工夫するとよい。</p>										

- ・賛成は黄色のチョークと青のマグネット、消すものは赤のチョークで線を引く、反対は赤色チョークと赤のマグネット、決定したことは青色のチョークで囲む、というように色分けして可視化することも考えられる。
- ・賛成マークや決定マーク、学習の流れを捉えさせる矢印マークなども有効に活用できる。

※2 児童の活動計画例 (児童の考えた活動計画 ※手書き)

ぎだい	ハッピーパーティーをしよう。 11月20日(金) 2時間目			第3回 5年2組 学級会 9月14日(水)			
ていあんりゆう	12月に、みんなと楽しい思い出をつくりたいと思ったから		ていあんしゃさん	議題	クラスの出し物を考えよう。		
やくわりぶんとん	し会	こくばん記ろく	ノート記ろく	提案理由(提案者)	クラスがもっと一致団結できるように。( )		
	さん	さん	さん	司会	・司会をする。		
きまつていること	日じ : 12月4日 ばしょ: 教室 かつどうの数: 3つ (みんなのできること)			副司会	・司会を助ける。 ・進行状況をチェックする。		
はなしあいのじゅんじよ	気をつけること			黒板書記	・黒板に記録する。 ・決まったことの色分け。		
1 はじめのことば	・いろいろな人がはっぴょうできるようにする。			ノート書記	・板書事項をノートする。 ・決まったことを発表する。		
2 やくわりしようかい				話し合いの流れ	担当者	時間	気をつけること
3 ぎだいのかくにん	・いけんが出ないときは			①始めの言葉	司会	10秒	かまないで、はっきりはきはき言う。
4 ていあんりゆうのはっぴょう	けいかくいんの人			②歌・ゲーム		5分	UFOゲーム
5 はなしあい はしら①(20分)	はっぴょうする。			③議題の確認	司会	20秒	考えるように言う。
みんなが楽しめるために、 何をするか。				④提案理由の確認	提案者	50秒	ていねいに言ってもらおう。
はしら②(15分)				⑤提案者への質問	司会	1分	あったら聞く。
どんなかかりがいるか。				⑥話し合う内容・順序の確認	副司会	1分	黒板を見ながら確認する。
6 きまつたことのはっぴょう				⑦話し合いのめあての確認	司会	40秒	優しい気持ちで反応しよう。
7 はなしあいのふりかえり							
8 先生のはなし							
9 おわりのことば							

【参照】

- 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(リフレット H30.7・指導資料 H30.12)」国研
- 「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」(リフレット H26.6・指導資料 H28.3) 国研
- 【芳賀教育事務所 芳賀の教育 HP 版 Q&A 集 特別活動 平成23年度 Q&A より】
- 「Q4 『学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。』」
- 「Q5 『学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。』」
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校・中学校 特別活動 R2.6)』国研
- 「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料(小学校 R2.7・中学校 R3.1)」県教委

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

令和 年 月 日 ( ) 第 校時  
第 学年 組 指導者 ○○ ○○

1 題材 バランスのよい食事

題材名(×)→題材(○)

バランスのよい食事(○)  
バランスのよい食事をしよう(×)

1 単位時間ごとに「評価規準」を作成せず、学校で作成  
(小学校は低・中・高学年別に作成)したものをそのまま掲載。

2 評価規準と目指す児童(生徒)の姿

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取組むことの意義を理解するとともに、適切な意思決定を行うために必要に応じて、必要な方法を身に付けていく。	日常生活における自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよい方法を身に付けていく。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組む。
目指す姿	<p>○学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が特別活動共通の評価の観点( )の部分)を定めることとなっている。</p> <p>○学級活動(2)(3)の評価規準「学校として見定めた評価の観点ごとに、発達の段階に即して設定した評価規準」を踏まえ、本題材のねらい、内容に即して、十分満足できる活動の状況を、「目指す児童(生徒)の姿」として記述する。</p> <p>○「目指す児童(生徒)の姿」は、観点ごとに記述する。事前、本時、事後の活動全体を通して、各観点をバランスよく設定することが望ましいが、必ずしも本時の中で全ての観点を評価する必要はない。例えば、事前で「主体的態度」を、本時で「知識・技能」と「思考・判断・表現」を、事後に「思考・判断・表現」や「主体的態度」を中心に評価することも考えられる。</p>		

【参照】

- 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校・中学校 特別活動 R2.6)」国研
- 「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料(小学校 R2.7・中学校 R3.1)」県教委

3 題材について

- 児童(生徒)が自己の課題として真剣にとらえ、目標や方法などを意思決定できるように、学級生活における児童(生徒)の実態から、この題材を取り上げる必要性などについて教師の題材観、指導観をまとめる。
- 必要に応じて、各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び外国語活動等との関連を図った計画的指導や学年段階、発達の段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項などについても記述する。
- (1)で児童(生徒)の実態を具体的に把握し、(2)では学級活動の特質、内容を踏まえるとともに、年間指導計画を確認し、(3)では(1)、(2)を受けて、ねらいを達成させるためにどのように指導して、どのような効果を期待しているか明示する。その際、(1)、(2)、(3)がそれぞれ関連し合うように記述する。

(1) 児童(生徒)の実態

- 学級での児童(生徒)の生活の実態や、これまでの学級での取組やその状況を具体的に記述する。
- 題材に関わる実態を調査し、その結果を分析して判断できる実態を記述する。
- 実態調査は、児童(生徒)のよさ、努力点、成長の様子、学習効果、学習を阻害する要因等が判断できるような(実際の指導に生かすことができるような)項目を設定することも考えられる。また、調査日、調査対象、調査人数等を明記する。
- 児童(生徒)の実態調査の分析は、できるだけ個を生かす支援につながるような記述に努める。

(2) 題材設定の理由

- 学習指導要領解説 特別活動編「学級活動」の内容を踏まえて、取り上げる題材の内容、今まで取り組んできたこととの関連、その題材を取り上げる意義、題材と児童(生徒)との関係などについて、題材を設定した理由を具体的に記述する。

(3) 指導観

- 題材のねらいや児童(生徒)の実態を踏まえながら、ねらいを達成するための指導や支援の手立てなどについて、指導の流れに沿って具体的に記述する。
- 題材やねらい、活動に応じて、教材・教具、キャリア・パスポート、資料の選択、グループ活動や事前の活動(問題の発見・確認)・本時の活動(話し合い～意思決定)・事後の活動(実践～振り返り)、調べる活動の活用、様々な表現の場づくりなどを具体的に示すような記述に努める。

#### 4 学校課題(研究主題)との関連

○学校課題と関連がある場合は、学校課題(研究主題)に迫るための授業の組立や指導の重点、具体的な手立などを題材レベルでまとめる。

#### 5 人権教育の視点

○題材のねらいや学習内容、指導方法と「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。  
○芳賀の教育 HP版 Q&A集 人権教育 H25「Q6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか」参照

#### 6 生かしたい児童(生徒)

○学習指導案参考例 P.33 の8(5)参照。

#### 7 他の教育活動との関連

○特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連について記述する。

#### 8 活動及び指導と評価の計画

○本時だけでなく、事前、事後の活動も記述する。  
※参照：芳賀の教育 HP版 Q&A集 特別活動 H23  
Q4：「学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。」  
Q5：「学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。」  
※基本的な流れや考え方は同じだが、旧学習指導要領の文言が使われている点に要注意。

	日時 【活動形態】	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿と評価方法
事前	○/○(○) (朝の会) 【学級全員】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を知る。</li> <li>・アンケート調査し、結果をまとめる。(児童・生徒が行う場合)</li> <li>・自分の問題について考えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画で設定した題材について事前に予告しておき、関心をもって生活をさせたり、問題意識を高めておいたりする。</li> <li>・学級の児童(生徒)の問題の状況を調査等により確認し、家庭への説明を行ったり、協力を依頼したりしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価規準に即して、一連の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。</li> <li>○例えば本時は、「思考・判断」に重点を置き、事後指導で「表現」の部分に重点を置くなど区別することも考えられる。</li> </ul>
本時	○/○(○) (朝の会) 【学級全員】	<p>【学級活動(2)(3)】 [集団思考を生かした一人一人の意思決定]</p>	※「(2) 本時の展開」参照	※「(2) 本時の展開」参照
事後	○/○(○) (朝の会) 【学級全員】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定期間、決めたことについて努力する。</li> <li>・振り返りをして、さらなる課題をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○の児童(生徒)には、○○の助言や励ましを行い、確実に実行できるようにする。</li> <li>・ペアでがんばりを確かめ合い、がんばりカードに励ましの言葉を書き合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【主体的態度】</li> <li>【思考・判断・<u>表現</u>】</li> <li>・自分で決めたことについて粘り強く努力をしている。</li> <li>[観察・努力カード]</li> </ul>

○「朝や帰りの会など、どの時間で行う予定か」(日時)や「全員の活動か計画委員の活動か」(活動形態)なども記述する。

○以下のような「題材の提示」から「振り返り」までの活動内容について記述する。

○児童(生徒)が左の活動を行う上で、何をどのように工夫したり、配慮したりするかなどを記述する。  
○課題を明確にするための調査などを実施する場合、題材との関連を明確にして記述する。

○評価規準に即して、一連の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。  
○例えば本時は、「思考・判断」に重点を置き、事後指導で「表現」の部分に重点を置くなど区別することも考えられる。

○事前や事後の活動については、活動回数(日時)に応じて区切り線を入れ、それぞれ記述する。

○太線で囲むなどして、本時の位置付けを明確にする。

## 9 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どんな意思決定ができるようにしたいのかという指導のねらいを端的に記述する。
- 観点別に、一つないし二つ程度のねらいを記述する。
- 評価規準・本時における目指す児童(生徒)の姿との関連を図り記述する。

### (2) 本時の展開

- 展開を読んで学習活動が把握できるように、できるだけ具体的に記述する。(つかむ・さぐる・見つける・決める)
- ※参照：芳賀の教育 HP版 Q&A集 特別活動 R2
- Q1：「小学校の学級活動の内容の(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」について、その特質及び題材や指導展開の例を教えてください。」
- 指導上の留意点から教師の指導・支援を記述する。その際、児童(生徒)の学習活動への働きかけやその手立て、助言などを具体的に記述する。
- 特に支援したい児童生徒については、「6 生かしたい児童(生徒)」との整合性を図り、具体的な手立てを通して指導・支援ができるよう記述する。
- 評価は、評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。

段階	児童(生徒)の活動	時間 形態	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 と評価方法	資料
導入 つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○以下のように、児童(生徒)が左記の学習活動を行う上で、資料や活動の場づくり、グループでの話し合い、チームティーチング、ゲストティーチャー、簡単な実験、体験談を聞くなどの工夫をする点を記述する。</li> <li>○指導者の立場で記述する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○以下のように評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。</li> <li>○いくつか例示しておくが、本時のねらいに応じて一つないし二つ程度設定することが望ましい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材とその課題の実態について知る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の現状、事実などが学級の一人一人に共通する課題であることが理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・課題の重要性について理解している。〔観察〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ、アンケート調査や実態調査結果、映像など</li> </ul>
展開 さぐる 見つける	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部の学習活動例</li> <li>・課題をつかむ</li> <li>・意識付けの資料を提示する。等</li> <li>○学級の実態や発達の段階に応じた分かりやすい題材、課題、ねらい等を提示する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導上の留意点における文章表現の例： 「○○する児童(生徒)に対しては、□□を△△することで◇◇を促す。」など、具体的な指導・支援が分かるように記述する。</li> <li>○指導上の留意点における文末表現の例： ～雰囲気をつくる。 ～助言をする。 ～の場を設定する。 ～声かけを行う。 ～を引き出す。 ～意欲を高める。 など</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部では、具体的な資料を効果的に提示して、問題を喚起する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の原因や様々な問題について知る。</li> <li>○「学習活動」の欄には、予想される児童(生徒)の反応を記述すると分かりやすくなる。</li> <li>・課題の解決方法などについて考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の原因について理解し、どうしても改善が必要であることが実感できるようにする。</li> <li>・様々な解決方法が出し合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・課題の原因(リスク、仕組み、影響など)について理解している。〔観察・学習カード〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な資料、実物、道具、写真、映像など</li> <li>・図版、絵、写真など</li> <li>・学習カードなど</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この活動において特に重点的に評価する部分がある場合は、このように観点を枠で囲ったり、下線を入れたりすることも考えられる。(事前・事後指導で評価する部分と区別する場合も同様)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・課題の解決方法について考えている。〔観察〕</li> </ul>	

終末 決める	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題にあった〔努力すべきこと〕を決める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の課題を確認できるようにし、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な意思決定ができるようにする。</li> <li>互いの頑張りについて、励まし合えるようにする。</li> <li>事後を見届ける手立てを明確にして、家庭との連携、行事との関連なども踏まえて実践への意欲を高めるようにする。</li> </ul>	<b>【思考・判断・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題にあった実行可能な取組や方法などを決めている。 〔観察・意思決定カード〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定カード、がんばりカードなど</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに自分の努力することを発表し合う。</li> <li>教師の説話等</li> </ul> <p>○専門的ゲストティーチャーや養護教諭、栄養教諭等の講話なども考えられる。</p>				

◎学校課題との関連      ○人権教育上の配慮

## 10 事後指導

○実践に向けて意欲を高めるための指導(活動)、意思決定したことの見直しのための指導(活動)、途中経過などを確認し合うための指導(活動)、ある一定期間実行後に振り返りまとめるための指導(活動)、さらなる活動へ発展させるための指導(活動)、意思決定したことの努力の実際、そのことによる成果などが実感できるようにするための指導(活動)などについて記述する。

### 【参照】

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）（リフレット H30.7・指導資料 H30.12）」国研

「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」（リフレット H26.6・指導資料 H28.3）国研

〔芳賀教育事務所 芳賀の教育 HP 版 Q&A 集 特別活動 平成 23 年度 Q&A より〕

「Q4『学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。』」

「Q5『学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。』」

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校・中学校 特別活動 R2.6)」国研

「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料(小学校 R2.7・中学校 R3.1)」県教委

# 学習指導案(特別支援教育)参考例

## 〇〇〇学習指導案(各教科、自立活動等)

※特別支援教育の学習指導案には、一人一人の児童生徒の実態に即した、個々の目標、活動及び教師の支援等を明記することが大切である。

〇ここで示したものは、参考例の一つである。

令和 年 月 日( )第 校時  
〇〇〇学級(〇年〇組) 指導者 〇〇 〇〇

〇学級の名称を記載する。

〇複数の時は T1 〇〇 〇〇  
T2 〇〇 〇〇

### 1 単元名(または題材名)

- ①児童生徒の視点に立った表現を工夫する。
  - ・活動がイメージしやすいような表現
  - ・活動の意欲が高まるような表現
- ②教科書の章や節を単元(教材)名とすることもある。  
(例)単元名「相手にわかりやすく伝えてみよう」(自立活動)や「かぞえてみよう」(算数)など  
教材名「カードを使って漢字をつくってみよう」(国語)

### 2 単元について(または題材について)

#### (1) 児童生徒の実態

〇単元(教材)観、児童生徒の実態、指導観の順に記述することもあるが、特別支援学級においては児童生徒の実態から教育課程の編成の際に作成した指導計画を元に単元(教材)を設定するため、**児童生徒の実態から書き始めることが望ましい。**

#### (2) 単元(教材)観

- 【児童生徒の実態】
  - ・人数、特性、単元(教材)に対する興味・関心や経験など、児童生徒の実態を記述する。
- 【単元(教材)観】
  - ・設定した単元(教材)の意義や単元(教材)に対する考え、単元(教材)におけるねらいなどを明確にする。
  - ・**自立活動では、実態と「個別の指導計画」、自立活動の内容(6区分27項目)との関連を踏まえて記述する。**

#### (3) 指導観

【指導観】

- ・児童生徒観や単元(教材)観の関連から**有効な指導の在り方を考え**、指導方法や学習活動を明確にし、指導をする上での留意点や教師の対応の工夫、手立てや方法、学習環境などについても記述する。

### 3 単元の目標(または題材の目標)

- ①本単元(教材)の学習を通しての全体の指導目標を**学習集団全体と個別の両面から記述する**。実態によっては、個別の目標のみの場合もある。
- ②単元の目標を一文で示す場合と資質・能力の三つの柱に即して三つの文章で示す場合もある。
  - (1) ~することができる。(知識及び技能)
  - (2) ~することができる。(思考力、判断力、表現力等) ※国立教育政策研究所や県教委の参考資料を参考にする。
  - (3) ~しようとする。(学びに向かう力、人間性等)
- ③**自立活動の目標は三つの柱では整理されていない。また、自立活動の指導が、各教科等において育まれる資質・能力を支える大事な役割を担っていると捉え、目標を設定すること。また、選定した自立活動の内容(6区分27項目)を【例3-(4)】のように記述する。**

### 4 人権教育との関連

- 〇単元の目標、学習内容と本校における人権教育の「育てたい資質・能力等」(知性・判断力・感受性・技能・実践力)との関わりについて記述する。
- 〇芳賀の教育 HP 版 Q&A集 人権教育 H25「Q6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか」参照

### 5 学校課題との関連(研究学校等においては、研究主題との関連)

- ①学校課題(研究主題)との関連がある場合には、学校課題(研究主題)に迫るための授業の組立や指導の重点などを単元(小単元、又は題材)レベルで記述する。その際、研究の内容に即して記述することが大切である。
- ②教科ごとの課題(研究テーマ)がある場合は、それぞれの課題との関連で記述することも考えられる。

### 6 単元の指導と評価の計画(〇時間扱い 本時〇/〇)

- ①年間指導計画の下に、単元(教材)の目標(ねらい)を踏まえて単元(教材)全体を見通し、指導する内容と時間数を明記するとともに、本時の位置付けを明確にする。
- ②本時に関わる場所は、具体的な計画を示し、本時の前後にどのような指導をするかが明らかになるように記述する。

時	主な学習内容・学習活動	評価規準		
		A児	B児	C児
1～3	○単元の主な学習内容・学習活動を説明する。			
4～7	○目標達成のために、単元（題材）の全体の主な学習内容や学習活動の流れが明確になるように簡潔に記入する。	◎	○評価規準には、次時に向けて「指導に生かす評価」と、単元（題材）の学習の評価として活用する「記録に残す評価」が分かるように記載する ○「個別の指導計画」に基づき、「単元の目標」に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入する。	
8～12		◎		
12～14		◎		

◎：記録に残す評価

## 7 本時の指導

### (1) 題目（題材名、または教材名）

○「6 単元の指導と評価の計画」との整合を図る。

### (2) 児童生徒の実態と個別の目標・評価規準

#### ①全体目標

○.....することができる。

○集団に関わる目標となる場合には記述する。

#### ②個別目標

	児童生徒の実態	個別の目標	評価規準
A児			
B児			
C児			

○「個別の指導計画」の目標とのつながり（整合性）を意識しながら設定する。  
○自立活動では、選定した自立活動の内容（6区分27項目）を【例3-（4）】のように記述する。  
○単元（題材）の個別目標との整合性を図る。

○個別の目標達成が確認できる具体的な状況（行動）を分かるように記述する。

### (3) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点

○本時において、学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）にどのように迫るのかを記述する。その際、課題解明の手立てや研究の内容に即して記述することが大切である。

### (4) 人権教育の視点

○本時の目標（ねらい）、学習内容や指導方法と、「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。ここでの視点が、展開の「人権教育上の配慮」において具体的な記述となる。

### (5) 展開（次頁参照）

①縦版でも横版でよいが、個別の支援の手立てを指導上の配慮事項に明確に記述する。

②TTの場合は、役割（T1・T2等）を明確にして記述することも必要である。

### (6) その他

○学校課題や研究内容及び教科等の特性などを踏まえ、必要に応じて、板書計画、発問計画、場の設定、教材・教具、環境整備の工夫、ワークシート（別紙）などの項立てをして、記述することも考えられる。

## 【参考資料】

- ・「特別支援学級及び通級による指導 教育課程編成の手引き」 H31.2, H22.2 栃木県教育委員会
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 R02.3 国立教育政策研究所
- ・「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」 R02.7 小学校 R3.1 中学校 栃木県教育委員会

(5) 展開

【展開の例】 <小学校 知的障害特別支援学級 国語科>

○展開については「特別支援学級及び通級による指導 教育課程編成の手引」（平成 31(2019)年 2月 栃木県教育委員会）を参考にし、記入すること。

○学習活動（太字）は、児童（生徒）の立場で記述する。

○指導上の留意点等には、個別の支援の手立てを具体的に記入する。

○参観者は、発達障害のある児童生徒に刺激を与えないなど授業参観の配慮が必要である。

◎学校課題との関連 ○人権教育上の配慮

学習活動	時間	指導上の留意点等			資料・準備物等
		A児	B児	C児	
<p><b>1 前時の学習活動を振り返り、本時のねらい及び学習の流れを確認する。</b></p> <p>まよい猫を見つけるために、話をよく聞いてメモを取ろう。</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズ形式により、前時に学習した記録の取り方を確認させる。</li> <li>本時における個別目標を確認する。</li> <li>猫の体の各部と特徴を結び付けてメモを取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取った猫の特徴についてメモを取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○TTの場合は、役割(T1・T2等)を明確にして記述することも必要である。</li> <li>猫の特徴について必要な内容を自ら考えてメモを取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモの取り方の見本</li> <li>教科書挿絵の拡大図</li> <li>振り返りシート</li> </ul>
<p><b>2 話を聞いてまよい猫を見つける。</b></p> <p>①話を聞きながら記録する。 ②条件に合う猫を見つける。 ③条件に合っている猫か確認する。</p>	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的に示すことにより自分で気付けるよう、猫のイラストの各部位に吹き出しを付けたワークシートにする。</li> <li>平仮名の50音表を机上に用意し必要に応じて確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモする内容を漏らさないよう体の各部位名（説明と関係ない部位を含む）が記入されたワークシートにする。</li> <li>再び説明を依頼するときの文と一緒に考え、文例を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦罫線のワークシートを用いて必要な事項についてメモが取れるよう書き方の見本を示す。</li> <li>説明を始める前に集中して話を聞く準備ができていないか確認できている場合には賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>依頼する文の例文</li> <li>猫のイラスト</li> </ul>
<p><b>3 本時のまとめと振り返りを行う。</b></p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体で猫の特徴を確認しながら、条件に合う猫を見つけられるようにする。</li> <li>個別目標の達成状況を振り返る。</li> </ul>			

○授業のはじめには、1時間の学習内容・学習活動の見通しをもたせる。  
○発達の段階に応じて分かりやすい言葉で示す。  
○**児童生徒それぞれが「何が」、「どのように」、「どのくらい」できればよいのかを分かるように示す。**  
○示す方法やタイミングについても工夫する。

○学習内容を整理する。  
○振り返り、自己評価をする。  
○次時への見通しや意欲につなげる。

○**児童（生徒）のつまずきを予想して支援の手立てを具体的に記述する。**  
○学習の方法、手順に基づき、主体的に学習に取り組むことができるようにする。  
○「声をかける」「励ます」といった支援のほか、児童生徒一人一人の実態を踏まえ、よさに目を向け、苦手な面を補える支援内容を記述する。  
○個別の教育支援計画に記載してある合理的配慮の内容を反映させる。

※指導上の留意点等には、個別の学習活動を入れることもある。

この日本語指導の学習指導案例は、日本語と教科の統合学習の考え方に基づいた「JSLカリキュラム」を取り入れた指導をする際の参考例である。ここでは、日本語指導における留意したい点のみを記載している。児童生徒の実態に応じて、適宜、作成することが望まれる。P. 31～ 教科学習指導案も参照し、作成されたい。

令和 年 月 日（ ）第 校時  
日本語教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名（小単元名、または題材名）

2 単元の目標（小単元の目標、または題材の目標）

(1) 教科の目標

- ・～することができる。（知識及び技能）
- ・～することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・～しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 日本語の目標

- ・～することができる
- ・～することができる。

○教科学習（目標）を確認する。

※ 日本語教室では、在籍学級での教科学習の橋渡しとなるよう、「日本語で学習活動に参加する力」の育成をねらいとする。

○「(1) 教科の目標」を達成するために、必要とされる日本語の力が日本語の目標となる。

例) こん虫について、「あたま、むね、はら」を使って、「～は、～なのでこん虫です。」と特徴を説明することができる。

3 単元の評価規準（題材の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

4 単元について（小単元または題材について）

(1) 教材観

(2) 児童（生徒）の実態

対象 児童・生徒 在籍学年	出身国・母語 (在日期间)	日本語習得状況	○○科に関する力
A児 ○年	ブラジル籍 ポルトガル語 (3年4ヶ月)	<p>・対象児童（生徒）の国籍、母国語、在日期间、在籍学年、日本語習得状況（家庭での言語環境や在籍学級、日本語教室での様子〔聞く・話す・読む・書く力〕等について、記述する。</p> <p>・教科に関する力（本単元の学習を進める上で、不足している知識や経験等）を記述する。</p>	
B児 ○年	フィリピン籍 タガログ語 (2年)	<p>・家庭では母語を使っている。</p> <p>・日常会話は、ゆっくり話せば理解することができる。片言であるが、短い文節で話すことができるようになってきた。</p> <p>・ひらがなやカタカナの読み書きはある程度身につけてきたが、漢字があまり理解できていないため、ルビ振りが必要である。</p>	<p>・生き物に興味があり、図鑑を見て、多くの生き物の名前を言うことができるが、教科内の学習言語を使って特徴を伝えることは難しい。</p> <p>・語彙「○○」などは、動作化や簡単な内容にすれば理解することができる。</p>

(3) 指導観

5 人権教育との関連

6 学校課題との関連（研究学校等においては、研究主題との関連）

7 単元の指導と評価の計画（○時間扱い）

教科の単元指導計画と評価計画を基に、在籍学級の授業者と連携しながら、日本語指導として教科学習に必要な言葉（語彙や表現）を設定し、指導計画を立てることが望まれる。

## 【単元の指導と評価の計画（○時間扱い）の例】

	目標 (ねらい)	主な学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準 (評価方法)	努力を要する状況と判断される児童(生徒) への指導の手立て
				知・ 技	思・ 判・ 表	態 度		
1 本 時	○本時の目標 (ねらい) を記述する。	○本時の主な学習 内容・学習活 動を記述す る。	○児童(生徒)の活動 を促進させるため の留意点等を記述 する。	①			○評価規準を記述する。 ○評価方法も併せて記述する。 <b>【日】教科学習に必要な言葉を使って、日本語で説明することができる。(活動の様子)</b>	○予想される状況とその手立てを簡潔 に記述する。 <b>【日】教科学習に必要な言葉を教師と 一緒に繰り返し言う。</b>
2					①			
3						① 記		

### 8 本時の指導

(1) 題目（題材名、または教材名）

(2) 目標（またはねらい）

〈教科の目標〉

〈日本語の目標〉

・～ することができる。

語彙：

表現等：

○本時の教科目標（ねらい）を達成する上で、習得させたい語彙や表現を具体的に示し、「日本語の目標」を明確にする。

例) 教科の目標：昆虫の成虫の体は頭、胸、腹からできていることを理解することができる。

日本語の目標：「こん虫・からだ・あたま・むね・はら」を使って、昆虫の特徴を発表することができる。

語彙 「こん虫」「あたま・むね・はら」「あし」「6本」(ほん・ぼん・ぽん)

表現等 「～はこん虫ですか。」「はい、～はこん虫です。」「～はあしが6本です。だからこん虫です。」

「こん虫のからだは、あたま、むね、はらからできています。」

(3) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点

(4) 人権教育の視点

(5) 個別のめあて

○対象児童生徒が複数で、少人数グループで行ったり、個別対応をしたりする場合、本時の教科の目標を達成するために、対象児童生徒の実態に応じた個別のめあてを立てる。

(6) 展開（次頁参照）

(7) その他

(6) 展開

【展開の例】

◎学校課題との関連

○人権教育上の配慮

学習内容・学習活動	時間	形態	指導上の留意点等	資料	評価(評価方法)
<p>1 あいさつ 日付、曜日、天気を確認する。</p> <p>2 本時のめあて(学習課題)を知る。 【めあて】○○について○○○○できる。</p> <p>3 いろいろな虫の体を調べ特徴別に分類する。</p> <p>4 昆虫の特徴を確認する。</p> <p>5 昆虫の特徴をまとめ、発表する。 ・発表後、昆虫の特徴について、わかったことを書く。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。 ・自己評価、相互評価をし、発表する。</p>	<p>導入 5</p> <p>30</p>	<p>個人</p>	<p>○3つの支援の設定(理解・表現・記憶) 「日本語の目標」で設定した、語彙や表現(学習言語の習得)を習得するために、3つの支援を入れる。 □理解支援:児童生徒が新しい語彙の意味がわからずにいる時に、易しい言葉に言い換えて説明するというような支援 □表現支援:児童生徒が適当な表現が見つけれない時に表現をいくつか示して選択させるというような支援 □記憶支援:繰り返し聞かせて定着を促進するような支援 ○具体物や直接体験による学びの支援も入れる。 ※「学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編)」文科省 参照</p> <p>・昆虫の体の構造に着目させるように、問いかける。(手立て) T: <u>こん虫の体を調べます。</u> こん虫のあしは、何本ですか。数えてみましょう。 C: 1ぼん、2ほん、3ぼん、4ぼん、5ぼん、6ぼん。 T: <u>こん虫のあしは、6ぼんです。言ってみよう。</u> つぎに、こん虫のからだは、いくつからできていますか。見てみよう。 C: 三つです。 T: <u>こん虫のからだの三つは、どんな部分からできていますか。</u> (あたま・むね・はら) C: あたま、むね、はらです。 T: <u>こん虫のからだは、あたま、むね、はらからできています。</u> ・ゲーム中のやりとりで、目標とする表現を繰り返し聞かせ、言わせて運用できるようにする。 ・発表モデルを用意してそのパターンを利用させ、考えを理由と判断を入れて昆虫の特徴を発表できるようにする。 [発表のモデル] A ( ) は、こん虫ですか。 はい、( ) は、こん虫です。 いいえ、( ) は、こん虫ではありません。 B ( ) は、あしが( )本です。だからこん虫です。 ( ) は、あたま、むね、はらからできています。だから( )。</p>	<p>・絵カード ・掲示物 ・横紙 ・マジック ・ノート</p>	<p>[評価規準] 【思・判・表】 ・○○○～○○○。 (観察・ノート) [十分満足できる状況] ・○○○～○○○。 (観察・ノート) (努力を要する状況と判断される児童(生徒)への指導の手立て) ・○○の場合は、○○するよう指示をする。</p>

「教師の働きかけ」と「児童生徒の応答・発話」を具体的に記入する。各教科のAUを参照。

※「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について」(最終報告)小学校編 文科省 参照



話しことば、やりとり中心で進めてきた活動内容から、授業の後半に書く場面を設定するとよい。

【参考資料】

- ・外国人児童生徒等教育に関する動画コンテンツについて 講義資料:日本語指導の方法2
- ・「外国人児童生徒受入れの手引き」(改訂版)
- ・「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について」(最終報告)小学校編: 文部科学省 (mext.go.jp)
- ・「学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編)」: 文部科学省 (mext.go.jp)

- R03.4 文部科学省
- H31.3 文部科学省
- H15.8 文部科学省
- H19.3 文部科学省

令和 年 月 日（ ）第 校時  
第 学年 組 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名（小単元名、または題材名）

2 単元の目標（小単元の目標、または題材の目標）

(1) 教科の目標

- ・ (知識及び技能)
- ・ (思考力、判断力、表現力等)
- ・ (学びに向かう力、人間性等)

(2) 日本語の目標

書き方については、各指導案参考例を参照。

3 単元の指導と評価の計画（〇時間扱い）

	目標 (ねらい)	主な学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準 (評価方法)	努力を要する状況と判断される児童(生徒)への 指導の手立て
				知 技	思 判 表	態 度		
1								
2								
3								
本 時								
4								

(記：記録に残す評価)

4 本時の指導

- (1) 〈教科の目標〉（またはねらい）  
〈日本語の目標〉

- (2) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点

- (3) 展開（別紙）

書き方については、各指導案参考例を参照すること

## ふれあい学習デリバリー講座の案内

ふれあい学習課では、研修会をデリバリー（お届け）しています。

「保護者」「一般」「教職員」対象の研修会に、本講座をどうぞ御利用ください。詳しくはホームページをご覧ください。（左下のQRコードからの検索が可能です。）

また、当課では、講師紹介や派遣、研修の運営等のお手伝いもいたします。研修内容でお悩みの時は、ぜひ御相談ください。

### 【保護者（保護者会・家庭教育学級等）】、【一般対象（公民館講座等）】

学習テーマ	主な内容
家庭教育・子育てについて	・家庭教育学級の進め方や方向性について考える ・子どもとのふれあいや接し方について考える ・生活リズムと子どもの成長について考える ・家庭教育支援プログラム（旧『親学習プログラム』を活用したテーマに基づくワークショップ）を行う
多様な人権について	・ワークショップを通して、人権の尊重について考える
地域学校協働活動について	・地域と学校のよりよい連携・協働について考える
P T A活動について	・P T A活動の更なる充実に向けて考える

### 【一般対象（子ども会育成会・自治会・公民館講座等）】

学習テーマ	主な内容
体験活動の実施について	・子ども会育成会等での体験活動について考える
地域課題の解決とつながりづくりについて	・『地域元気プログラム』を利用し、地域課題の解決について考える
ボランティア活動について	・地域や学校等でのボランティア活動について考える

### 【教職員対象（現職教育等）】

学習テーマ	主な内容
人権の尊重について	・ワークショップを通して、人権の尊重について考える ・人権教育ワークショップを指導する手法を体験する
地域学校協働活動について	・学校と地域のよりよい連携・協働について考える
コミュニティ・スクールについて	・学校運営協議会における熟議等について学ぶ
ワークショップの展開について	・保護者会や研修等でのワークショップの手法を学ぶ

- ・上記の講座は、参加体験型学習（ワークショップ）の手法を用いて実施します。
- ・土曜日・日曜日の研修にも対応可能（祝祭日は要相談）です。
- ・上記以外の学習テーマや内容についても、遠慮無く御相談ください。
- ・準備の都合がありますので、遅くとも1ヶ月前までには御連絡ください。

◎日程や内容等が決まりましたら、まずはふれあい学習課まで電話にて連絡をお願いします。

日程等調整後、所定の様式にてメールまたはF A Xでお申込みください。



デリバリー講座

芳賀教育事務所ふれあい学習課

TEL : 0 2 8 5 ( 8 2 ) 3 3 2 4

FAX : 0 2 8 5 ( 8 2 ) 5 1 4 0

メール : haga-leo-fureai@pref.tochigi.lg.jp

所定様式

# ふれあい学習デリバリー講座申込書

令和 年 月 日

芳賀教育事務所長 宛

団体・学級等の代表者名 \_\_\_\_\_

下記のとおり、ふれあい学習デリバリー講座を申し込みます。

記

団体・学級名	
テーマ	
ねらいとする内容	
希望の学習形態	ワークショップ 中心 (グループ数: ) 講話 中心
希望日時	令和 年 月 日 ( ) : ~ :
会場	室 ( 階)
備品等	いすと机 (テーブル) いすのみ いす・机なし ※会場の備品等を○で囲んでください。
機材等	パソコン プロジェクター HDMI ケーブル スクリーン タブレット 電子黒板 マイク コードリール (延長コード) ※準備可能な機材を○で囲んでください。
参加人数	およそ 人 (対象者: )
担当者の所属 氏名 連絡先	TEL ( )

芳賀教育事務所ふれあい学習課  
TEL: 0285 (82) 3324  
FAX: 0285 (82) 5140  
メ-ル: haga-leo-fureai@pref.tochigi.lg.jp

## [学校訪問について]

### 1 学校訪問の意義

学校訪問は、健康で創造性に富み、人間性豊かで社会の変化に主体的に対応できる児童生徒の育成を目指し、調和のとれた学校運営の下、各学校が主体的・創造的に教育活動を推進できるよう支援するものである。

### 2 学校訪問の方針

(1) 栃木県教育委員会事務局芳賀教育事務所（以下「教育事務所」という。）並びに真岡市教育委員会及び益子町教育委員会、茂木町教育委員会、市貝町教育委員会、芳賀町教育委員会の芳賀管内5市町の教育委員会が一体となって各学校の指導助言に当たる。

(2) 各学校の教育活動や教育研究が主体的・創造的に推進できるよう支援する。

### 3 学校訪問の目的及び方法・内容

#### (1) 合同訪問

##### ア 目的

計画的に各学校を訪問することにより、学校経営、教育課程の運用、学習指導、児童・生徒指導、健康教育等、学校教育全般にわたり、学校の実態に即して、指導助言や研究協議を行い、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援する。

##### イ 方法・内容

(ア) 訪問に当たっては、合同訪問の目的を踏まえ、「令和8年度教育施策」（栃木県教育委員会）における栃木県教育行政基本方針と重要施策、「令和8（2026）年度指導の指針 幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校」（栃木県教育委員会義務教育課）、「令和8（2026）年度芳賀の教育」（教育事務所）に基づいて指導助言する。

(イ) 訪問者は、市町教委の教育長・指導主事等、教育事務所の所長・学校支援課長・ふれあい学習課長・管理主事・指導主事・社会教育主事等とする。

(ウ) 訪問者の人数は、各学校の教員定数に基づくとともに、小学校と中学校それぞれの特質を考慮して決定する。なお、授業者は県費負担の常勤教職員とする。

(エ) 合同訪問は、研究学校等の指定の有無にかかわらず3年に一度を原則とする。

※訪問者及び日程案は、4月の芳賀郡市小・中学校長連絡会議で示す。

※4月下旬に訪問校全体説明をオンラインで行った後、訪問1～2か月前を目安に、各学校と事前打合せを行う。

### 【令和8年度訪問予定校】

市町名	学校名	市町名	学校名
真岡市	真岡市立真岡東小学校	益子町	益子町立田野小学校
	真岡市立大内東小学校		益子町立益子小学校
	真岡市立山前小学校		益子町立益子中学校
	真岡市立西田井小学校	茂木町	茂木町立茂木中学校
	真岡市立久下田小学校	市貝町	市貝町立赤羽小学校
	真岡市立真岡西中学校	芳賀町	芳賀町立芳賀北小学校
	真岡市立山前中学校		
真岡市立物部中学校			

(2) 管理訪問

ア 目的

新任の管理職者及び新規採用教職員の配置校を訪問し、学校管理、学習指導等、学校経営・運営や学級経営に関する直接的な指導を行い、学校教育のより一層の充実を支援する。

イ 方法・内容

- (ア) 新任校長配置校は当該市町教委教育長と教育事務所長が訪問する。
- (イ) 新任教頭配置校は当該市町教委教育長と管理主事が訪問する。
- (ウ) 新規採用教職員配置校は当該市町教委教育長、管理主事、指導主事が訪問する。
- (エ) 新任校長、新任教頭、又は新規採用教職員配置校において、当該年度の合同訪問対象校になっていない場合に、管理訪問を実施する。当該年度に合同訪問該当校は、管理訪問も併せて実施する。

(3) 要請訪問

ア 目的

各学校、又は学校関係団体等の要請に応じて訪問し、課題説明等を支援する。

イ 方法・内容

- (ア) 訪問者は、学校や学校関係団体等の要請内容に応じて、芳賀四町教育研究協議会を含む各市町教育委員会と教育事務所との間で調整を図って決定する。
- (イ) 主な要請内容は次のとおりとする。
  - ・学校課題追究の過程における問題点の解明
  - ・学習指導、児童・生徒指導、人権教育、特別支援教育等の問題点の解明
  - ・学校訪問等において、指示・指導を受けた問題点の解明
  - ・学校関係団体等の研究の進め方や研究課題の解明
  - ・その他
- (ウ) 要請は、半日又は放課後だけでもよいものとする。
- (エ) 要請に関する問合せ等は、真岡市については、真岡市教育委員会とし、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町については、芳賀四町教育研究協議会の各町担当者とする。ただし、学校関係団体等はこの限りではない。

<問い合わせ（要請の窓口）>

真岡市教育委員会                      電話 0285-83-8181    FAX 0285-83-4070  
(真岡市の学校の窓口)                E-mail : gakkoukyouiku@city.moka.lg.jp

芳賀四町教育研究協議会              電話 0285-81-5881    FAX 0285-81-5880  
(益子町、茂木町、市貝町、芳賀町の学校の窓口)    E-mail : yoncho@kyougikai.jp

## 諸表簿整備に当たっての主な項目と観点例 (令和8年度)

下表は、諸表簿整備をする場合の参考として作成したものです。学校の必要に応じ、修正するなどして活用してください。

番号	主 な 項 目	主 な 観 点 例
1	学 校 経 営 の 概 要	ア 学校経営の方針、努力点、具体策の関連が明確であり、学年・学級経営に生かされ、計画的な実施に努めている。 イ 学校運営の状況について保護者等に積極的に情報提供されている。 ウ 生涯学習の理念に沿い、特色ある学校経営が行われている。 エ 学校評価を生かし、学校運営、教育活動を工夫改善している。 オ 危機管理を意識した学校経営が行われている。
2	履 歴 書	ア 履歴書が適切に管理されている。
3	学 校 日 誌	ア 学校行事をはじめ、職員の動向や児童生徒の出欠状況等が正確に記載されている。 イ 記載内容が他の表簿等と一致している。
4	出 勤 簿	ア 職員の勤務態様が正確に表示されている。 イ 記載内容が他の表簿等と一致している。 ウ 集計が正確に記入されている。
5	諸 願 届 簿	ア 着任届、年次休暇届、傷病休暇願、特別休暇願（届）、介護休暇願、欠勤届、研修願、退職願等の書類が処理され整理されている。
6	旅 行 命 令 簿	ア 学校日誌、出勤簿、復命書との関わりが正確に処理されている。
7	旅 行 復 命 書	ア 学校日誌、出勤簿、旅行命令簿との関わりが正確に処理されている。
8	勤務の割り振りに関する書類	ア 職員の勤務時間の割り振りに関する書類が整備されている。 イ 週休日の振替簿が整備され適正に処理されている。
9	休 暇 簿	ア 学校日誌、出勤簿との関わりが正確に処理されている。 イ 休暇日数等が正確に記入されている。
10	職 免 承 認 簿	ア 学校日誌、出勤簿との関わりが正確に処理されている。 イ 承認簿や承認請求書が正確に記載されている。

番号	主な項目	主な観点例
11	学校訪問の記録	ア 学校訪問の記録が整備されている。
12	学校評価の記録	ア 学校評価の記録が整備されている。
13	教育課程表	ア 学習指導要領を踏まえた教育課程が編成されている。 イ 地域や学校、児童生徒の実態等に応じ創意工夫された教育課程が編成されている。 ウ 特別支援学級の教育課程が、個々の実態に応じて編成されている。 エ 教育課程の実施状況を評価し、その改善を図っている。
14	年間指導計画	ア 学習指導要領を踏まえた各教科等の評価計画を含む年間指導計画が整備されている。 イ 道徳教育の全体計画及び道徳科の年間指導計画が整備されている。 ウ 総合的な学習の時間の全体計画及び評価計画を含む年間指導計画が整備されている。 エ 特別活動（学級活動、児童会活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事）の全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画（内容のまとまりごとの評価規準を設定）及び評価計画が整備されている。
15	週指導計画（週案）	ア 年間指導計画を踏まえている。
16	人権教育全体計画と実施記録	ア 現職教育等で、計画的に人権教育の研修が実践されている。 イ 各学校における人権教育の課題の明確化と教育計画への適切な位置付けが行われている。 ウ 重点化を図った資質・能力や直接的指導の学習が位置付けられた各学年の人権教育年間指導計画が整備されている。
17	児童・生徒指導全体計画と実施記録	ア 全校体制を意識した指導計画が整備されている。 イ 実施記録が整備されている。 ウ 学校いじめ防止基本方針が整備されている。
18	教育相談計画等と実施記録	ア 教育相談の計画が整備されている。 イ 実施記録が整備されている。
19	特別支援教育全体計画	ア 特別支援教育の全体計画が作成されている。 イ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画が作成され、保護者との合意形成がなされている。
20	キャリア教育・進路指導全体計画	ア 系統的なキャリア教育・進路指導全体計画が作成されている。 イ 各教科等との連携が図られている。 ウ キャリア・パスポートの記録が蓄積されている。

番号	主 な 項 目	主 な 観 点 例
2 1	学校保健計画と実施記録（環境衛生検査実施記録を含む）	ア 学校保健計画（全体計画）が作成されている。 イ 性に関する指導、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の指導計画に基づいて指導され、実施記録が整備されている。 ウ 環境衛生検査の実施及び事後措置に努め、実施記録が整備されている。
2 2	学校安全計画と実施記録（安全点検実施記録を含む）	ア 学校安全計画（全体計画）が作成されている。 イ 生活安全、交通安全、災害安全について計画的、継続的な指導及び訓練等が行われ、実施記録が整備されている。 ウ 安全点検の結果に基づき、危険箇所の明示、修繕等の適切な措置が講じられ、実施記録が整備されている。
2 3	危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）	ア 危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）が整備されている。 イ 不祥事防止の危機管理マニュアルが整備されている。
2 4	食に関する指導計画と実施記録	ア 食に関する指導全体計画①及び②（年間指導計画）が作成されている。 イ 実施記録が整備されている。
2 5	健康と体力向上の実施記録	ア 新体力テストの結果などをもとに、体育・健康に関する指導の全体計画を作成し、工夫・改善が図られている。 イ 実態を踏まえた健康づくり、体力づくりに努め、実施記録が整備されている。（新体力テストの実施計画および実施記録、分析を含む）
2 6	小学校児童指導要録 中学校生徒指導要録	ア 総合的な学習の時間及び特別活動の評価の観点等が記入されている。 イ 所見については、児童生徒の長所が取り上げられて記録されている。
2 7	出 席 簿	ア 記録等が校内統一されている。
2 8	児童生徒健康診断票	ア 記入事項が正確に記録されている。
2 9	学年・学級経営 個人指導の記録	ア 学年・学級経営方針、努力点、具体策、評価等が明確になっている。 イ 長所などを取り上げた個人の記録が累積されている。
3 0	生涯学習に関する全体計画と実施記録、地域連携推進計画	ア 生涯学習推進に関する全体計画が整備されている。 イ 地域連携に関する推進計画が整備されている。 ウ 実施記録がまとめられている。 エ 生涯学習に関する文書が適切に整理されている。